

令和6年度 公益財団法人くまもと里海づくり協会 事業報告書

(1) 総 括

公益目的事業である里海づくり事業は、種苗の生産及び配付を行う「里海づくり推進事業」として、マダイをはじめ5種の魚類と、クルマエビ、アカウニ等4種の介類の生産・配付を行うと共に、技術開発のための「里海づくり技術開発試験」としてキジハタの親魚養成・採卵、タイラギの中間育成及びカキ類種苗生産安定化試験に取り組んだ。

また、里海づくり事業が県民に広く理解を得られるよう「里海づくり事業の啓発普及」を行った。

一方、その他の事業としては、海面及び内水面の水産養殖業の発展を目的に、養殖用等の水産動植物の種苗生産及び配付をする収益事業を行った。(表1 参照。)

(2) 里海づくり事業(公益目的事業: 公1)

ア 里海づくり推進事業

事業費(当初): 184,307千円(174,936千円)

水産動植物の種苗を生産・育成して放流し、その資源を管理する「つくり育て管理する漁業」を推進するにあたり、生物多様性に配慮した水産動植物の種苗を生産・育成して、市町、漁協、釣り団体等に配付すると共に、その放流効果を検証して、県民に広く啓発・普及することによって、県民生活に不可欠な水産物の安定供給の確保と海洋環境の保護を図った。

(ア) 水産動植物の種苗生産及び配付

事業費(当初): 178,047千円(168,701千円)

当協会は、熊本県内最大の種苗生産機関として、熊本県が策定する「水産動物の種苗の生産及び放流並びに水産動物の育成に関する基本計画」に基づき、県内放流事業に必要な種苗を、市町・漁協などで構成する熊本県栽培漁業地域展開協議会や釣り団体等に配付して、県下全海域の種苗放流事業の促進を図った。

なお、種苗生産・配付する魚介類は、マダイ、ヒラメ、イサキ、カサゴ、アユの5魚種とクルマエビ、ガザミ、タイワンガザミ、アカウニの4介類、合計9種である。(表2-1、表2-2 参照。)

a 水産動物種苗生産業務等受託事業

事業費(当初): 123,764千円(123,784千円)

熊本県からの水産動物種苗生産業務等の受託事業で、生産・配付する種苗は、マダイ、ヒラメ、イサキ、カサゴ、アユの5魚種とクルマエビ、ガザミの2種の介類、合計7種の魚介類である。

(a) マダイ

全長50mm種苗97.2万尾を計画どおり生産・配付した。

(b) ヒラメ

全長30mm種苗8.7万尾、全長50mm種苗49.9万尾を計画どおり生産・配付した。

(c) イサキ

全長40mm種苗26.6万尾を計画どおり生産・配付した。

(d) カサゴ

全長50mm種苗12.9万尾を計画どおり生産・配付した。

(e) アユ

体重3.5g種苗7.8万尾、体重0.3g種苗130万尾を計画どおり生産・配付した。

(f) クルマエビ

全長14mm種苗426.1万尾を計画どおり生産・配付した。

(g) ガザミ

3令期種苗62.6万尾を計画どおり生産・配付した。

b 有明海漁業振興技術開発事業（種苗生産等）業務受託事業

事業費（当初）：18,245千円（17,758千円）

熊本県からの種苗生産等業務の受託事業で、生産・放流する種苗は、クルマエビ、ガザミの2介類である。

(a) クルマエビ

放流群毎にDNA標識を付すため、採卵に用いる親エビを限定し、放流群間で混入していない平均全長14mm以上の種苗200万尾の生産計画に対し、平均全長14mm以上の種苗289万尾を生産し放流試験に供した。

(b) ガザミ

放流群毎にDNA標識を付すため、採卵に用いる親ガニを限定し、放流群間で混入していない1令期以上の種苗140万尾の生産計画に対し、1令期種苗及び3令期種苗146.5万尾を生産し放流試験に供した。

c 協会単独種苗生産等事業

事業費（当初）：36,038千円（27,159千円）

市町等から直接当協会に生産・配付要望を受けて取り組む事業で、生産・配付する種苗は、マダイ、ヒラメ、イサキ、カサゴ、アユの5魚種とクルマエビ、タイワンガザミ、アカウニの3介類、合計8種の魚介類である。

(a) マダイ

全長50mm種苗1.3万尾を計画どおり生産・配付した。また、新たに要望があった全長50mm種苗4.6万尾を生産・配付した。

(b) ヒラメ

全長50mm種苗12.0万尾を計画どおり生産・配付した。また、新たに要望があった全長50mm種苗0.5万尾を生産・配付した。

(c) イサキ

全長40mm種苗9.0万尾を計画どおり生産・配付した。また、新たに要望があった全長40mm種苗3.0万尾を生産・配付した。

(d) カサゴ

全長70mm種苗3.5万尾を計画どおり生産・配付した。また、新たに要望があった全長70mm種苗0.6万尾を生産・配付した。

(e) アユ

体重3.5g種苗14.6万尾を計画どおり生産・配付した。また新たに要望があった体重3.5g種苗4.4万尾、体重0.3g種苗15万尾を生産・配付した。

(f) クルマエビ

全長14mm種苗18.0万尾を計画どおり生産・配付した。

(g) タイワンガザミ

1令期種苗19.0万尾を計画どおり生産・配付した。また、新たに要望があった1令期種苗22.9万尾を生産・配付した。

(h) アカウニ

殻径10mm種苗28.3万個を生産・配付した。

(イ) 共同放流事業の推進

事業費（当初）：5,570千円（5,564千円）

マダイ・ヒラメ・イサキ・カサゴ・ガザミ・エビ類の共同放流事業を実施する熊本県栽培漁業地域展開協議会に対し負担金を支出して参画するとともに、事務局として共同放流事業の推進を図る。

同協議会は、マダイ50mm種苗97.2万尾、ヒラメ50mm種苗58.7万尾、イサキ40mm種苗26.6万尾、カサゴ50mm種苗10.9万尾、ガザミ3令期種苗50.6万尾の共同放流を行い、クルマエビを有明海域における四県が連携する共同放流事業として40mm種苗140万尾を放流するとともに、八代海域におけるクルマエビ、クマエビなどのエビ類547.1万尾の共同放流を行った。

(ウ) 種苗放流効果の実証

事業費（当初）：690千円（671千円）

放流効果を実証していくため、共同放流事業を実施する熊本県栽培漁業地域展開協議会に参画し、県水産研究センターと連携しながら県内主要市場等においてモニタリング調査等を行い、放流魚の混獲率等を把握すると共に、その効果の啓発普及に取り組んでいる。

令和6年4月から令和7年3月まで県内3市場で調査し、放流魚の識別にはマダイ及びイサキでは鼻孔連結、ヒラメでは無眼側の体色並びに尾鰭の色素着色の有無を用いた。

マダイは、延べ3,526尾を調査し放流魚は39尾で、放流種苗の鼻孔連結率で補正した混入率は3.0%であった。

イサキは、延べ4,071尾を調査し放流魚は6尾で、放流種苗の鼻孔連結率で補正した混入率は0.6%であった。

ヒラメは、延べ657尾を調査し放流魚は180尾で、混入率は27.4%であった。

イ 里海づくり技術開発試験

事業費（当初）：17,782千円（8,496千円）

本県の里海づくりにとって有望な水産動植物の種苗生産技術開発試験等を実施すると共に、既存の種類についても種苗性向上及び生産コスト低減の観点から技術向上試験を実施し、効果的な里海づくり事業を促進する。

（ア）種苗生産技術開発試験

a キジハタ親魚養成・採卵・種苗生産試験

事業費（当初）：2,902千円（3,244千円）

キジハタ種苗生産に用いる良質な卵を得るための親魚養成・採卵・種苗生産試験を行った。養成した親魚からの卵の確保とふ化試験によるふ化仔魚の確認はできたが、種苗生産試験を行うために必要な卵数は確保できなかった。

b（新規）新たな稼げる養殖業推進事業に係るカキ類種苗生産安定化対策業務受託事業

事業費（当初）：10,008千円（0千円）

7月から県の委託を受けてマガキの種苗生産試験と県水産研究センターで種苗生産したクマモト・オイスター稚貝の中間育成の安定化試験を行った。平均殻高9.0mmのマガキ稚貝53.6万個と平均殻高8.7mmのクマモト・オイスターの稚貝を15.8万個の稚貝を生産した。

（イ）中間育成技術開発試験

事業費（当初）：4,872千円（5,252千円）

熊本県からの有明海漁業振興技術開発事業（種苗生産等）業務受託事業として、漁獲量が低迷しているタイラギの資源回復を図るための中間育成技術開発試験を行っている。

a タイラギ

令和5年度から継続飼育している稚貝を中間育成し、平均殻長90mm稚貝1,700個を水産研究センターへ引き渡した。また、新たに県外の機関で生産された平均殻長28mmの稚貝5,000個を搬入し、中間育成試験を行っている。

（ウ）種苗生産技術等安定試験

a 量産技術開発のためのデータ収集

里海づくり事業を推進する種苗生産において、種苗性や生産性の向上をめざし技術改良のためのデータ収集を行う。

ウ 里海づくり事業の啓発普及

事業費（当初）：517 千円（516 千円）

熊本県栽培漁業地域展開協議会の共同放流事業と連携し、各漁協等が行うマダイ・ヒラメ・イサキ・カサゴ・クルマエビ・ガザミの中間育成及び放流の指導・助言を行っている。

また、沿海市町と全漁業協同組合が参加して実施する本協議会の共同放流事業の意義と実績を県民に幅広く周知するため報道機関に対し情報提供（プレスリリース）を行った。

この他、施設の見学、教育機関等の研修受入、市町や漁協、地域団体等が主催する体験放流に種苗提供等を実施し啓発普及を行った。

（３）その他の事業（収益事業：収１）

事業費（当初）：2,658 千円（3,380 千円）

海面の養殖業等の振興を主な目的に、養殖用等の水産動植物の種苗生産、中間育成及び配付を行った。（表３ 参照。）

ア 養殖用クルマエビ種苗生産及び配付

養殖用として１０～１２mm種苗３７７．６万尾の生産・配付の計画だったが、需要の減少で３６７．６万尾を生産・配付した。

イ 養殖用アカウニ中間育成及び配付

養殖用として殻径１０mm種苗３．０万個を計画どおり生産・配付した。また、新たに要望があった０．４万個を生産・配付した。

